

25 日 おぢば伏せ込み回参(早朝)

24 日 教会長夫妻教理研鑽「教祖伝」  
教会活性支援部会 婦人会連絡会  
ようぼく育成部会 少年会委員会  
大教会ひのきしん(東松浦)

23 日 少年会縦の伝道講習会  
婦人会詰所ひのきしん

22 日 大教会ひのきしん(表野・飛鳥川)  
婦人会伏せ込みひのきしん  
大教会月次祭

22 日 祭典準備ひのきしん

21 日 大教会ひのきしん(相嘉)

18 日 岡心勇隊大阪地区

15 日 大教会ひのきしん(道弘)

14 日 教会おとまり会(岡隊・飛鳥川隊)

13 日 岡心勇隊奈良中和地区

9 日 岡心勇隊五條橋本(あやの台)

7 日 婦人会委員会 岡心勇隊八幡地区

5 日 東松浦おつとめまなび総会

4 日 岡心勇隊佐賀地区

3 日 おぢば伏せ込み回参(午前中)

25 日 詰所運営委員会 学生担当委員会  
教養掛実技勉強会 青年会委員会

26 日 本部月次祭 祭典後お礼つとめ  
お運び(大教会)

27 日 新任教会長の集い

29 日 岡心勇隊博多地区

30 日 岡心勇隊姪浜会場

30 日 第19回生活復興ひのきしん隊  
鼓笛隊練習日

◆本部辞令  
・少年会隊長変更(3月26日付)  
表野隊 蓮池光理  
飛鳥川隊 出口萌々  
上橋隊 藤本望美  
肥道隊 松本久子  
北有明隊 小林由希  
岡村隊 金子和結太

◆大教会人事(3月23日付)  
・おつとめ奉仕人  
肥陽 由良野 志津

◆教養掛(5月)  
南 瀧 森井 幸子

◆第46教会長資格検定講習会修了者  
(2月27日・3月19日)  
岡 広谷 保

**参加者募集中**

**南相馬 復興支援ひのきしん**

**第19回隊員募集中**

5月29日 18時集合・出発  
※実動は30日、31日の三日間  
6月1日 おぢば帰着予定  
参加お供え/3000円

申込先/奥村孝(岡村分教会)  
030-4779-6099

◆教会長資格検定合格者(3月20日付)  
岡 広谷 保

◆修養科第85期修了者(3月27日付)  
筑後川 田中 映理子  
福門 石丸 悟

◆別席願(3月16日・4月15日詰所受付分)  
杵島 江上 さくら  
白石町 古閑 惇也  
香蘭 金武 恵理  
西大阪 野坂 三保子  
福門 山田 博  
南 瀧 井上 さゆり

◆おさづけの理拝戴願  
(3月16日・4月15日詰所受付分)  
東志免 高場 彦輝

R178  
**教務報**  
5月  
**阜月**

OKA

ようぼくの心と心をつなぐ

立教178年(H27)

4月23日発行

News Letter

「車いすでの移動だった私が、いまは歩いて修養科に通わせていただけている」と話すのは、2月から修養科生活を送る三浦孝二さん(74歳・芦刈分教会)。「たくさんの方に支えていただきたがらの修養科。おぢばへの伏せ込みを通して、大きな御守護を頂いた。修養科は本当に素晴らしいところだと思ふ」と笑顔で話し、率先してひのきしんに励む。

現在、詰所で修養の日々を送っている岡の関係者は13人。この春には、同期の志願者が十数年ぶりに10人を超え、12人が修養科を志した。

修養科に入る動機は、一人ひとり違う。昨夏に受講した三日講習会終了後に修養科を志願したというのは、大橋喜隆さん(59歳・福門分教会)。「教祖年祭“仕上げの年”に、自らが動かないと親神様・教祖は働いてくださらない」と所属教会の会長が話され、それなら修養科に行かせていただくことと決めた。修養科を通して、妻や家族のありがたさを感じている」と話す。

黙々と修練やひのきしんに取り組むのは、片岡健二さん(30歳・北佐賀分教会)。「修養科に行くことは、正直、面倒だなと感じていた。しかし、さまざまな事を通して親孝行の気持ちが大きくなり、両親から勧められた修養科に来た」と、志願の動機を話す。そして「ひのきしんに取り組む仲間の姿を通して、ここには思いやりの心を育む空気があると感ずる。それに、大勢で過ごす詰所での生活は、とにかく楽しい」とも。



**修養科が  
いま熱い!**

「53年ぶりの修養科志願。求めて学べるいま、楽しくて仕方ない」と話す原田潤子さん(74歳・鳥飼分教会)は、お道の仲間二人と共に修養科へ。大きな身体を抱えての志願だが、「何の心配もしていない。だって、務めさせていただける御用がまだあるから、私は生かされている。親神様にもたれきっています」と、笑顔が絶えない。

互いに支え合って明るく陽気に修養に励み、信仰の喜びを味わい、自らの信仰を見つめ直すことができる修養科。4月の教養掛として、修養科生の修養科生活を支えている谷川清彦・岡道分教会長は「大勢の修養科生同士が互いに切磋琢磨し、日々、修練やひのきしんに励んでいるその姿に、あらためて修養科の意義を感じる。一つ屋根の下で共に送る修養科生活には、お互いを思いやる心、楽しんで取り組む雰囲気、そして賑やかな声があふれている」と。修養科が、いま熱い!

# 元一日を胸に

大教会役員 森川祐三



『おふでさき』に「月日にわにんけんはじめかけたのわよふきゆさんがみたいゆへから(十四 25)」とあります。親神様は、人間が陽気ぐらしをするのを見て神も共に楽しみみたいという思いで、この世界、人間をお造りになりました。

世の中を見渡しますと、自然や生活環境、また文明の発展など、本当に素晴らしいものばかりです。ポタン一つで、地球の反対側のことまで知ることが出来る時代になりました。

一方で、人間の心はどうかと考えると、いまも世界のどこかで戦争が起こり、残酷な事件が多発しています。本当に、恐ろしい気がしてなりません。この状態で、はたして陽気ぐらしができるのでしょうか。戦争などは、遙か遠くの国のことと思いがちですが、私たちの身近な一人ひとりの心はどうでしょうか。新聞などを見ますと、日本国内でもさまざまに痛ましい事件が起こっています。

私たち人間の心には、二面性があると思います。私自身を省みますと、「良い森川祐三」と「悪い森川祐三」が。どこかで聞き覚えのあるフレーズですが、電車の中で、調子のいい時には「どうぞ」と座席を譲ること

日でした。そんな中で、周りが一生懸命にたすけ心を出していく姿に、「自分は何んとたすけ心の無い男なのか」と感じたのです。

反省する一方で、「お道は素晴らしい」とも思えました。縁もゆかりもない人に、進んでたすけの手を差し伸べていく世界。これはすごいと思いました。そして、見返りを求めていた心を反省し、お世話取りをさせていただく相手に心を寄せると、相手の心が変わっていくのがわかりました。

心が変わると、身上も変わっていきます。御守護の世界へと、神様が連れて通ってください。結局、まったく歩けなかったその方が修養科を終える時には、スーツを着て、ネクタイを締め、革靴を履いて帰っていかれました。修養科の3カ月で、神様の御守護をたくさん見せていただきました。教え通りなのだと思います。

私は、教会長になるまでにさまざまな事を経験いたしました。それこそ、苦しい道中を、何年も通ったこともありました。しかし、その道中があったから、修養科での経験があったから、未来に向かって新たな勇みが出てきます。「教祖年祭の句に何か神様の御用をさせていたどころ」という思いにもなっています。もし、修養科を志願していなかったら、お道の御用はしていないでしょうし、会社で働くだけで終わっていたかもしれません。

ここが、私の信仰の元一日です。皆さんの中にも、ご守護を頂かれた方も大勢おられるでしょうし、心のたすけ、身上のたすけを感じておられると思います。「神様のおかげ」、「この教えは素晴らしい」という心を忘れることなく、常々に心に置いて通らないと、何か起こったときに「天理教をやめよう」となりかねません。

「神様なんか無い」と思ってしまうことが、私の場合は多々ありました。なので、この元一日、信仰の始まりを忘れないように努めました。これは、一人ひとりが必ず心に持ち続けていなければならないことだと、私

があります。しかし、調子の悪い時という時、寝たふりをしようなことが時にあるのです。優しい心と冷たい心を備え持っていて、どのような状況でどちらの心が現われるのかわからない。これが、私たち人間の心ではないでしょうか。

教祖百三十年祭に向けて、互いにたすけ合う、陽気ぐらし世界を目指す我々には、このようなむごい心を少しでも無くし、優しい心になっていくための務めがあると思えてなりません。しかし、現状は自分自身も行き届かないと反省するばかりです。

私の教会では、「心得」を参拜場に掲げています。その一つに「信仰の元一日を忘れてはならない」とあります。この文字を見るたびに、信仰の元一日を考え、喜ばせていただくことがたくさんあります。日々の生活の中でさまざまな事が起こってきますが、この喜び心を自らがしっかりと持って通るといふことを心に置いておかないと、外に向かっただけの丹精も出来にくいのではないかと思います。

「自分の信仰はいつからか」と考えさせられることが多々あります。「自身の信仰の始まりは何か」と考えた時、私は修養科時代を思い浮かべます。修養科へは行かれた方もありますが、素晴らしいところですね。この4月にもたくさんの方が修養科を志願されているようですが、ぜひ、教祖百三十年祭に向かって、一人でも多くの方に志願して頂きたいと思います。

私が修養科を志願した時は、ちょうど自身の転職の合間でした。「親があまりにも勧めるから」との思いもあり、半分、遊びのような気持ちで行ったように思います。

修養科では、一生懸命、献身的に、身上者に心を寄せて世話取りに努める多くの姿を目の当たりにしました。そして、詰所で私に与えられた御用も身上者の世話取りでした。まったく歩けない方の世話取りをさせていたのですが、何かとその方に不足をする毎

は思うのです。そうしないと、今の自分はありません。この教えを聞きながら育ったから、現在の姿がある。だから、悪い事も良きように受け取って、日々通れると思うのです。

しかし、良いことばかりではありません。そうした思いで勇んで通っていても、時にはとんでもない事が起こってきます。節なくば成人できない、ということでしょうか。そういったことを、時々見せてくださるのです。

『諭達第3号』に、「時として、親神様は子供の行く末を案じる上から、様々なふしを以て心の入れ替えを促される」と記して下さっています。私たちの行く末を案じ、心を立てなおすために「節」に現してください。そして、「人をたすける心」へと導いてくださるのです。私ごとですが数カ月前、息子が交通事故で重傷を負い、救急搬送されるといふ出来事がありました。おかげさまで大きな御守護を頂き、先日、無事に退院させていただきました。

その中で、この信仰があるから自分たちの心も切り替えられ、反省もさせていただけると感じました。そして、神様の御守護と人の真実をたくさん目の当たりにしました。信仰はありがたい、素晴らしいと感じさせていただけなのです。

それと共に、信仰信念、信仰の元一日をしっかりと持っていないと、いざという時に心を倒してしまうことを再確認しました。そして、自分出来る身近なおたすけも必要ですが、道の後継者をしっかりと丹精させていただくことの重要性を感じました。

教祖百三十年祭に向かって力を込めれば、句の御守護、実りは大きいと聞かせていただきます。「しっかりとお道を通らせていただく」との思いで、精一杯、お通り頂きたいと思えます。そして、それぞれが信仰の元一日を胸に、勇んで歩みを進めていただきたいと思えます。



西北分教会



東松浦分教会

## 教祖誕生祭へ にぎやかに団参相次ぐ

ご本部で勤められた「教祖誕生祭」。この日に向けて、各地から団参が相次ぎ、大教会も各教会からの帰参者でにぎわった。17日には、フェリーで団参した西北分教会が大教会参拝。また18日の夕刻には、東松浦分教会、岡瀧分教会、瀧登分教会、岡館分教会、界澄分教会が大教会参拝。別席の順序運びなども行われた。このほか、17日の夕刻に、婦人会東神田支部の奥様方も参拝に来られた。(会報編集部把握部)。



岡瀧分教会・瀧登分教会  
岡館分教会・界澄分教会



婦人会東神田支部

## 帰参者の皆さんに「おかえり屋台」開店

教祖誕生祭の帰参者でにぎわう4月18日、詰所で「おかえり屋台」が開店された。模擬店を担当したのは、この日「あらかとうりよう入門塾」を開催していた青年会のメンバー。炭火焼きの焼き鳥のほか、すじ煮込み、肝煮込み、ビール、日本酒などが振る舞われた。開店と同時に賑わう「屋台」で、愛情込めて作るメニューに舌包みを打つ帰参者。また、「屋台」では海外布教隊の募金活動も実施。たくさんの方々からお心寄せを頂き、9千350円の支援が寄せられた。



開店と同時に賑わう「屋台」で、愛情込めて作るメニューに舌包みを打つ帰参者。また、「屋台」では海外布教隊の募金活動も実施。たくさんの方々からお心寄せを頂き、9千350円の支援が寄せられた。

### 本部員・宮森与一郎先生を迎え

## 「おつとめ勉強会」お手直し

### 基本の手を、基本通りに、きちんと振る

3月24日(火)、本部員・宮森与一郎先生を招いての「おつとめ勉強会」が三年ぶりに開催され、おつとめ奉仕人をはじめ、教養掛等を含む51名が参加した。

これまでの「勉強会」は、教会長夫妻の教理研鑽の場として実施され、「みかぐらうたに込められた親心」と題して、宮森先生による講義が進められてきた。そして、おてふりの手の基本動作にもふれながら、「なぜ、『なげの手』の指先はそろえるのか」など、手振りに込められた親の思いを心において手を振ることの重要性を勉強してきた。

宮森先生による講義も、前回までに後半下りまで進み、現在は、受講したそれぞれが復習を通して理解を深める段階に。今後は、「教会につながる信者さんたちに、自分の言葉でどのよう

に伝えていくかということをおつとめ奉仕人が8人おり、さらには、来年9月24日にとめられる「大教会創立百二十周年記念祭」に向けて、「いま一度、おてふりの基本から学び直すこと」を目的に開催された。



本の手を、基本通りに、きちんと振ること」を最終一貫してお仕込みいただき、参加者が理解しやすいように自ら手を振って見せてくださる。また、ユーモアあふれる説明を交えながら丁寧に指導くださり、それぞれの癖を直す努力の必要性や、人に合わせることの大切さを学んだ。

今回、初めて参加す

るおつとめ奉仕人の中には、宮森先生から癖などを指摘され、「これまでは意識せずにお手振ってきたが、この日は緊張しながらの参加になった」と振り返る人も。集中した勉強会の時間は瞬く間に過ぎ、当初予定していたところまでは進まなかったが、参加者からは「真剣な中にも、終始和やかな雰囲気の中で練習することが出来、とても充実した時間となった」との声が聞かれた。

次回のお勉強会は、9月24日に宮森先生を迎えて開催予定。大教会の創立百二十周年までには、おてふり以外のおつとめの勉強会も検討されている。



当日は、大教会神殿参拝場を会場に午前9時から正午までの3時間、「よろづよ八首」から「三下り目」までを熱心に研鑽した。勉強会では、宮森先生より「基

礎の勉強会では、宮森先生より「基

# グラフ 特集!!

今年も大盛況のうちに幕を閉じた、「少年会岡団総会」。趣向を凝らしたプログラムを通して教理を学び、交流を深めた子供たちの姿を写真で紹介します。



「本番」を目前に控え、「おてふり教室」で最後のおてなおし。



「鳴物練習」では、鳴物のリズムに重点を置いて練習をくり返し、一手一つの大切さを学んだ。



ゲームやお話を通して交流を深め、教理をわかりやすく学ぶ「おはなし」教室。



背筋を伸ばし、精いっぱいおつとめを勤める中学生クラスの姿は、小学生や園児たちのお手本に。



「みかぐらうた」に合わせて、鳴物を勤める少年会員の表情は真剣そのもの。



「みんなのでつくる総会」がテーマの少年会岡団。少年会員も一緒に、後片付けを行う。

待ちに待った会食、アトラクション。一番の盛り上がりを見せたのは、ビンゴ大会。



## 少年会員が一堂に会し 一手一つに 賑やかに「岡団総会」開催

少年会岡団（蓮池弘之団長）の「総会」が3月31日に大教会で開催され、少年会員157人、育成会員188人の合計345人が参加した。

総会当日は、神殿での記念撮影の後、開会。大教会長の祭文奏上に続いて、今春から婦人会員・青年会員となる中学校修了者15人が、少年会卒業のお礼の参拝をした。

124人8交代でつとめられる、一手一つに賑やかなおつとめまなび。『みかぐらうた』を元気な声で唱和し、この日まで懸命に練習を重ねてきた成果を親神様・教祖にご覧頂いた。

前日の30日には「練成会」として、育成行事を開催。メインの「ツアーズ」では、「おてふり練習」、「総合練習」、「鳴物練習」、「リズム練習」、「おはなし」に教室を分けて、仕込み行事を実施。おつとめ練習のほか、おはなしやゲームを通して親神様のご守護とみ教えを学び、交流を深めた。また、夜のお楽しみイベント「オカリンピック」では、趣向を凝らした競技に一喜一憂。チーム対抗戦で得点を競い、「こどもおちばがえり」の「三つの約束」を感じつつ、交流を深めた。

◆ 「総会」翌々日の4月2日には、婦人会、青年会、少年会による撤収作業を実施。少年会員を含む約60人が参加し、総会、練成会で使用した物品などの片付けが行われた。

今春、少年会を卒業し、それぞれ婦人会員、青年会員となった中学3年生。大教会長様、奥様と一緒に。



「総会」に向けて、それぞれ練習を重ねてきたおつとめまなび。真剣に勤める姿を、親神様・教祖にご覧いただく。



～ 来春開催予定 ～

### 少年会岡団「記念総会」

少年会岡団の「総会」が始まったのは、今から29年前の教祖100年祭の年の春。来春、30年の節目を迎える岡団では、「記念総会」の開催を予定しています。

## 「誠心団結」を合言葉に 別席団参、強調日、には こぞっておぢばへ

教祖百三十年祭の年祭活動も、いよいよラストパートです。真柱様は『諭達第3号』で、「ようふぼく一人ひとりが立教の本旨を胸に刻み、陽気ぐらし世界建設のよふぼくとしての自覚を高め、ひながたを目標に実動すべき旬である」とお示しくくださり、「教

**【別席団参お誘いチラシ】**

親里ちば（奈良県天理市）は、私たちの故郷です。ご存命の教祖は、いつも私たちの帰りをお待ちくださっています。あなたもこの機会に、おちばに帰りませんか？そして、心をフレッシュさせましょう！

**6月27日（土）/10月25日（日）**  
この日は別席団参の「強調日、正午より「お礼のおつとめ」

（東礼拝場で「岡」の旗が目印です）

「初席」や「おさづけの禮拜殿」など、「順序運び」が必要な方は、事前に大教会へご連絡ください。また、宿泊を予定されている方は、前もって教会から岡事務所へご連絡ください。

■天理教岡大教会■ 〒634-0111 奈良県高市郡明日香村岡395 TEL/0744-54-2002	■岡事務所■ 〒632-0016 奈良県天理市川原崎町914 TEL/0743-63-6371
--	--

祖の道具衆たるよふぼくお互いが、その使命を自覚し、任務に邁進して、御存命の教祖にお喜び頂きたい」と求めくださっています。年祭活動「仕上げの年」を迎え、元の上級である敷島大教会の會長様より、「心勇講別席団参」をお打ち出し頂きました。「一手一つに別席者をお連れして、おぢばを精一杯賑やかにしよう」とのお声です。岡大教会では、強調日に合わせて、正午より本部東礼拝場で「お礼のおつとめ」を勤めさせていただきます。合言葉は「誠心団結」。さあ、今こそ岡の力を結集して、別席者をおぢばにお連れし、御存命の教祖にお喜び頂きましょう。

# 4月「おぢば伏せ込み団参」



あいにくの雨のため、ひのきしんは西礼拝場階下の清掃に。すのこの下や下駄箱の中など、細かいところまで、一生懸命きれいにさせていただきました。ひのきしんが終わるころには雨も上がり、美しく咲く桜を背に集合写真。今月は、82人の参加をいただきました。

**学生、本部勤務者の皆さん！一緒に実動しましょう♪**

## 道頓堀戎橋でにをいかけ

### 岡分会「布教合宿」

「ご通行中の皆さま、私たちは天理教の若き布教師、天理教青年会岡分会の者です。本日は、奈良県天理市からやってまいりました」

国内はもとより、遠く海外からの観光客でにぎわう大阪市中央区道頓堀。その道頓堀川に架かる戎橋上に、陽気に勇んで神名を流し、路傍講演を務める青年会員の声が響き渡る。この日は、青年会岡分会（上田耕平委員長）の「布教合宿」の日。表時布教所（上田時弘所長）を拠点に一泊二日で合宿し、2日間にわたって布教実動を展開した。

この布教合宿は、「年祭活動の“仕上げの年”、真柱様、青年会長様は私たち青年会員に実動を求めてくださっている。とにかく動かしていただく」と毎月1回行われているもの。これまででは、大教会や詰所を拠点に実施していたが、今回は、「日本で出来る海外布教にも取り組もう」と、大阪市を布教地に選



戎橋上での路傍講演。あいにくの雨模様だったが、道行く人に熱く語りかけた（4月10日）

天理教について説明した。翌日は、表時布教所周辺でにをいかけ。神名流しでは、表時布教所の少年会員も参加すること。共に勇んで、神名を流した。布教所近くのJR桃谷駅前での路傍講演中に

は、周辺を神名流しする他の教友とすれ違い、「勇み心を頂いた」。また、ある他系統の教友からは「たまたま駅前を通ったら、皆さんの姿。勇んでつとめておられる皆さんを応援したくて」と、差し入れを届けてくださる一幕もあった。上田委員長は「実動すればするほど、親神様・教祖からさまざまな御守護とメッセージを頂くことが出来る。青年会としては、9月に『全六分会布教推進週間』という、大きなにをいかけ実動が待っている。一人でも多くの青年会員で実動できるように、この布教合宿を充実させたい」と話す。



道行く人に声をかける青年会員。中には足を止め、興味深く話を聞いてくださる方もいた（4月11日、JR桃谷駅前）



金武 恵理(高3/香蘭分教会)

\*\*\*\*\*

同世代の道の仲間との出会いがあり、天理教のつながりを強く感じることができました！参加してよかったです。



常道 大喜(大2/瀧登分教会)

\*\*\*\*\*

新しい友達がたくさんでき、充実した「春学」でした。高校時代の友達とも再開でき、最高の一日となりました。



荒井 誠人(高1/表野分教会)

\*\*\*\*\*

真柱様の「心の成人は、意欲で変わる」とのお言葉を胸に、これから成人に向けて、一歩でも前進できるように頑張ります。



松本沙耶加(大4/眞澄分教会)

\*\*\*\*\*

大教会でのひのきしんで味わった一体感は、とても心地よく、楽しめました。和やかな雰囲気がよかったです。

「この道の行く末は、今後の若い皆さんの肩に懸かっています」。道の学生で埋め尽くされた中庭に響き渡る、真柱様のお言葉。その一言々に真剣に耳を傾け、うなずく、岡につながる学生たち。そのお言葉を胸に、さらなる歩みを進める決意を固めた。

3月28日に本部中庭で開催された、「春の学生おぢばがえり」。式典後の大教会ごとに行わ

る「直属アワー」では、会場を岡大教会に移し、まずはウォーミングアップでリラクセス。続いて、大教会長からのお話を聞かせていただいた。昼食の後は、伏せ込みプログラム。これまでは、奈良市内での神名流しや路傍講演などを、いがけ実動することもあったが、今回は大教会でのひのきしん。目前に迫った「少年会岡団総会」の会場設営と、布団運搬などの宿泊準備を行った。

参加した中から、4人の感想を紹介する。



大教会での「直属アワー」に参加した、岡につながる「若き華」。大教会長様とパチリ♪

## 「春の学生おぢばがえり」 「若き華」ぢばに集い決意新たに 岡学生担当委員会



40歳までの既婚女性で構成される、婦人会岡支部の「盛華会」。その盛華会の例会が4月4日、大教会で行われ、少年会員18人を含む合計27人が参加した。

例会は、毎月一度のペースで開催され、「教祖を身近に」をテーマに、ひのきしんや教理勉強などを実施。大教会への伏せ込みを通して、お互いの交流を深めている。

なかでも、この世代の女性は、妻として、また母親としても子育てに追われ、悩むことの多い時期でもある。それだけに「こうして集まる機会を作っていただけ

で、お互いの心の内を話し合える。そうすると、心もリフレッシュでき、また頑張ろうという気持ちが増える。



この日は、大教会のトイレや洗面所などで使われている「どうさんタオル」の修繕と整理を実施。ほつれた所はミシンで縫い直し(写真Ⅱ上)、きれいにたたんで整理した(写真Ⅱ右)。

## 「どうさんタオル」を補修整理 婦人会岡支部「盛華会」

### 婦人会「伏せ込みひのきしん」

R178年3月22~23日

「寒の戻り」からか、寒い日となりました。年祭まで、残り約10カ月。心を引き締め、精いっぱい、ひのきしんを務めさせていただきました。

担当係/上田 敏江(表田)

参加者/松川万代(東松浦大阪)、津田美智子(枚方)、角 てる子(鳴瀬)  
小川二三代(千代町)、奥村寿美恵(岡村)、塚元順子(武生水)  
鬼頭照子(筑撮) 順不同